

伝兵衛五井／三峰川流域の用水路

農民の願いの結晶三峰川筋の用水路

三峰川流域では幾度も井筋の掘削が試みられ、幾筋もの用水路が造られてきた。伊東伝兵衛が手がけた井筋の中で、代表的な5つ（鞠が鼻井筋（春富大井筋・伝兵衛井）、大島二番井（六道二番井）、小原井筋（太田井、勝間下井）、お鷹岩井筋（黒河内新井筋）、上伊那井筋（伝兵衛堰 / 辰野町））は総称して伝兵衛五井と呼ばれる。伝兵衛五井以外では、伊那市長谷の黒川の上流から引かれた和泉原井筋、美和ダムの残存営農対策で黒川から引かれた美和一貫水路、山室川から引かれた月蔵井筋、藤沢川から引かれた六道原一番井などがある。これらは、復旧・再建工事など、多くの人々の努力による維持管理や改良を重ねて現在にいたっている。



鞠が鼻井筋の末端に、伊東姓をもつ小集落がある（東春近）
工事にあたって人たちが、ここに伊東姓をもらい、住まいを構えたという

伊東伝兵衛

江戸時代後期、1801（享和元）年に現在の伊那市長谷杉島の旧家に生まれ、数々の水利事業に大きな功績を残した。

鞠が鼻井筋 （春富大井筋、 伝兵衛井） （伝兵衛五井のひとつ）

鞠が鼻での難工事のため、二度の開削失敗があった。伝兵衛による開削後も、維持管理に莫大な費用が掛かった。この井筋は現在も段丘上の田畑を潤している。

名称	着工	完成	期間（年）
鞠が鼻井筋(柳沢弥佐衛門)	1655	1658	3
鞠が鼻井筋(原新田村)	1814	1818	4
鞠が鼻井筋(伊東伝兵衛)	1832	1832	0
月蔵井筋(高遠藩)	1847	1847	0
六道一番井(高遠藩)	1848	1850	2
六道の堤	1849	1851	2
大島二番井(伊東伝兵衛)	1854	1858	4
小原井筋(伊東伝兵衛)	1855	1866	11
お鷹岩井筋(伊東伝兵衛)	1833	1869	36
大島二番井(北原平八郎)	1895	1911	16
和泉原井筋(久保田朝太郎)	1939	1943	4
美和一貫水路	1957	1969	12



鞠が鼻井筋と水路改修記念碑



隧道記念碑

information

□ アクセス

（鞠が鼻井筋）
伊那ICから10km
車→20分

□ 所在地

伊那市富県～東春近



（国土地理院の数値地図25000(地図画像)を使用）

伝兵衛五井／三峰川流域の用水路

農民の願いの結晶 三峰川筋の用水路



月蔵井筋跡

高遠藩直営で工事が行われ、山室川上流の荊口赤坂から取水。月蔵山に幅60cm、長さ12mのトンネルを掘り、沿線の灌漑を行うとともに東高遠の武家屋敷や高遠城にまで引水して御用水として使われた。灌漑用水としては昭和中期ころまで使用された。



六道原一番井

水源は三峰川支川の藤沢川で、取水口は高遠町野笹。河岸段丘の最上段「上の段」まで、幅2.1～3.3m、深さ76cm、延長11kmに渡る用水路。高遠に通じる最大の難所「鉾持棧道」の崖の岩盤を約300mくぐり抜ける。



六道の堤

六道原一番井完成後、上大島村(現美篤大島区)の名主らと村役人が陳情し、造られた温水ため池。これによりさらに井筋は延伸し、耕作面積が広がった。現在は、桜の名所としても有名になっている。



大島(六道)二番井 (伝兵衛五井のひとつ)

伊東伝兵衛が建設にあたったが、洪水により幾度も補修工事が繰り返された。北原平八郎は1895(明治28)年に改良・改修を計画した。私財をなげうち、1911(明治43)年に完成させ、三峰川右岸の中段を潤す井筋となった。



小原井筋(太田井、勝間下井) (伝兵衛五井のひとつ)

鳶沢(現高遠町勝間)から小原村宮原(現高遠町小原)まで「上井筋」を計画したが失敗。次に開削した井筋が「小原井筋」。三峰川左支川の大日陰沢から取水し、美和ダム左岸の中腹～勝間～小原に達する約7,140mの井筋。伝兵衛の死後、井筋は荒れたが、太田立斎が、造築・修理し完成させた。



お鷹岩井筋(黒河内新井筋) (伝兵衛五井のひとつ)

当初は黒河内新井筋と呼ばれていた。お鷹岩という大岩盤との格闘の末で上がった井筋。伝兵衛により計画されたが、亡くなるまでの29年をかけても54mしか掘削できなかった。その後、埋橋興一、羽場善七により完成。さらに溝口村(現長谷溝口)が本格的に開削し完成。名前も「お鷹岩井筋」となった。伝兵衛起工以来50年を要した。



和泉原井筋跡

黒河内村(現長谷黒河内)は、黒河内新井筋の開削に携わったが、灌漑不可能と判断し、断念。その後、久保田朝太郎により、別の井筋(和泉原井筋)が引かれ、和泉原の開田を実現した。

《三峰川総合開発》

美和ダム・高遠ダム

美和ダムは、日本で初めての特定多目的ダム。治水、農水(かんがい)、発電を目的として、旧建設省により1959(昭和34)年に建設された。

高遠ダムは、1957(昭和33)年に長野県企業局によって建設された。

江戸時代より行われてきた井筋開発は、いずれも小規模で不安定な取水だったが、現代の水路開発に受け継がれ、水源施設の美和ダムと運用施設の高遠ダム建設によって豊かで安定した灌漑用水供給が実現した。その他、いくつかの水路開発がなされ、三峰川流域の総合開発として、維持管理されている。

美和一貫水路



黒河内新井筋(お鷹岩井筋)開発が起源となり、美和ダムの残存農対策として誕生した用水路。延長約10kmで、長谷地域の農業全体を支えている。完成まで12年の歳月を費やした。